

みどりの ニュースレター

4
2012
No.227

市民の発信で持続可能な社会をつくる

特集：里山をあそぶ



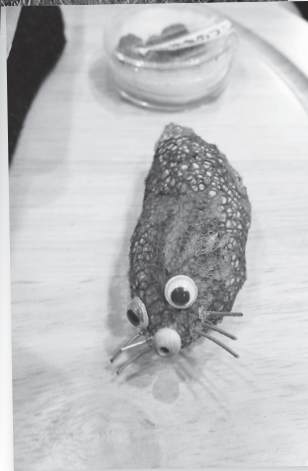
特定非営利活動法人

環境市民

¥200

収益の一部は環境市民の活動資金として使わせていただきます。なお、会員には毎月無料配布しています。

このニュースレターはボランティアの手で折られ発送しています。



21世紀 地球を、地域を、生活を、持続可能な豊かさに
<http://www.kankyoshimin.org/>



Twitterやってます！
アカウントは kankyoshimin です。

みどりの ニュースレター

No.227 2012年4月号

編集員が行く！ 02

サティシュ・クマールさん
「今、ここにある未来」何か変えたいと思うなら、
あなたがその核になりなさい

特集：里山をあそぶ 03-08

行事案内 09-10

3.11. 後の世界で 11

京都大学原子炉実験所助教 小出 裕章さんに聞く

とれたて 環境市民 12-13

第3回「ぬいカフェ」～手作りお菓子とお茶を楽しむながらチクチクぬいぬい♪～/サイクリング
の季節到来！ 京都自転車マップ 京都市内版・
京都郊外版

読者交流コーナー みどりのかわらばん 14

1/ 環境市民 15

捨てればごみ、でも循環すれば資源。ちよつと意識
を変えるだけ/藤田 アニコーさん

次号
予告

みどりの
ニュースレター

No.228
2012年5月号

現在
編集中!

特集：日本の環境首都コンテスト先進事例（仮）

2010年度に終了した日本の環境首都コンテスト。10
年間で668にも及ぶ先進事例が選ばれました。この1年
間、それらから「ベスト・プラクティス」を選び、ウェブ
サイトで公開する準備をすすめてきました。それがこの4
月には満を持して公開されます。次号の特集では、ウェブ
サイトの使い方ガイド、とっておきの事例紹介など情報満
載でお届けします。

編集員が行く！

編集部のアンテナにかかった選りすぐりの
エコ情報を伝えます！

No.34 サティシュ・クマールさん

「今、ここにある未来」

何か変えたいと思うなら、

あなたがその核になりなさい

エコロジー思想の巨匠、サティシュ・クマールさん
の「今、ここにある未来」の上映会+トークイベント
に行ってきました。このイベントは、京都・滋賀・東
京・神奈川で行われ、映画の後、ナマケモノ倶楽部の
辻信一さんとのトークがありました。

映画は、日本の中を歩き回るサティシュさんをカメ
ラが追いかけます。銀座の街で腰かけるサティシュさ
ん、自然な暮らしを实践する人と語らい、共に作り食
事をするサティシュさん。

「口から入るものは私たちの体を作るもの。だから
とても大切。なぜもっと大切に考えないのでしょうか。
また、作る過程を楽しむことも大切。たとえばみんな
でこうやって作って食べる食事、おいしくて体にもい
い。その過程も大切なのです。今は電気がなんでもやっ
てくれますが、そうやって作った時間で何をするので
しょう」。

私は滋賀の会場に行きました。食のことを考える上
で滋賀はとても大事な場所だからと、講演会の会場に
加えたそうです。

「銀座は緑がない。もっと木を植えたらいいのに。
ニューヨークもそう、ロンドンも。滋賀はすごく心地
がいい。この暮らしを大切にしてほしい」。サティシュ
さんは、滋賀がとても気に入られた様子でした。

サティシュさんは自然エネルギーを使うことの大切
さを説きます。すべての人に平等にふりそそぐ自然エ
ネルギー。ドイツでは自然エネルギーが多くの雇用を
生みしました。

実は滋賀会場はお菓子と飲み物付きでした。希望す
ればお弁当も予約できるようになっていました。マク
ロビオティックなどのこだわり弁当とお菓子。飲み物
の容器もリユースできるものでした。映画を見なが
らおいしいお弁当を、お話を聞きながらジンジャー
ティーとレーズンケーキを食べ、なんか不思議にまっ
たりと一日を終えました。

サティシュ・クマールさんと辻信一さんの笑顔と「何
か変えたいと思うなら、あなたがその核になりなさい
」。サティシュさんの言葉がいまも心に残ります。

(文/ニュースレター編集部 千葉 有紀子)

特集：里山をあそぶ

里山 ——人と生き物が共存する暮らし

自然、生き物との共存と言うと、手つかずの自然を想像し、ともすれば、まったく人の手が触れていないままの状態がいいのではないかと思いがちです。もちろんその状態も生き物にとっては大切です。しかし、人類も他の生き物と共存していかなければなりません。人が生き物と共に持続可能に暮らしてきた歴史、それが里山です。

里山とは

里山という言葉は、^{しでい}四手井綱英先生が使い始めて広められた言葉です。ずっと木や森とかかわってこられた先生は、里山をこう定義します「農用林であって、直接収入を伴わない林」。

人里があり、農業を営む人間が生活をし、人里に近いところの森林を人が利用しやすいように、下草を刈って光を入れ、うっそうとした森にならないように、絶えず手を入れる。その森からは燃料としての薪を得て、落葉や刈った下草は有機肥料として農業に利用する。循環型の仕組みでもあります。森林は水を貯める水瓶でもあり、そして、濾過器でもあります。降水量が多い日本ですが、木がなければ、豊かな水を保つことはできません。豊かな海やそこに流れ込む川の水は森が作ります。

里山よりもさらに深い森は奥山といい、多くの生き物たちの生活の場所でありました。そして、時には里山くらいまでは降りてきても、お互いに知らんふりをして共存しあう、人類と生き物とのいい関係です。

近年、時に生き物たちが人里近く降りてきては問題となっています。その原因としては、生き物たちの場所である山を人間がどんどん宅地化してしまっていることと、降りてきてもいいぎりぎりの場所、里山に人間が手をいれられなくなっていることが挙げられます。境界線がはっきりしなくなって、どこまで降りてきていかわからなくなっているのです。

鎮守の森

寺社仏閣の所有する森の存在も忘れてはいけません。これは里山と言いつつも、手の入れ方や、使用の仕方が農業型の里山と異なり、原生林に近い状態で残されているところもあります。しかし、まったくの原生林ではない、という意味で、原生林と里山の中間にあたり、最近では里山として分類されることが多くなっています。

もともとは、里山の定義には属さなかったのですが、

人里にも近く、近くに住む人の暮らしにも密接にかかわる鎮守の森は、里山としての認識が高まりつつあります。また寺社の協力により、周辺の住民が立ち入れる場所も多く、私たちにとっても生き物にとっても重要な場所であるといえます。

近くにある里山

とかく、都会に住んでいるから全く里山とは関係ないと思いがちですが、それがそうでもありません。たとえば、近郊型の農業は思っているよりも盛んです。里山や農業を営む人の暮らしを生き物たちは案外上手く利用しているものです。

最近では、里山とそれを利用して成り立ってきた農地や人の暮らし、それらを含めた環境を広い意味で里山とよぶことが多くなっています。それは、人の暮らしが、もともと里山と深く繋がっているのだということの意味します。寺社の多い近畿においては、先に挙げた鎮守の森という環境にも恵まれています。

残念なことに、宅地開発などで、森林はどんどん失われています。しかし、たとえば、里山と里山のその間に一本の木でもあれば、生き物はそれを中継地としながら移動をすることができます。里山とそれをつなぐ環境も私たち一人ひとりの心がけ次第なのかもしれません。（文／ニュースレター編集部 千葉 有紀子）

里山の特集はいままでニュースレターでも取り上げています。バックナンバーはウェブサイトをご覧ください。

トップページ>論文・写真・出版>ニュースレター>バックナンバー
http://www.kankyoshimin.org/modules/library/index.php?content_id=57

- ・里山と琵琶湖との関わりについて
元琵琶湖博物館館長、川那部 浩哉さん執筆（2009年3月190号）
- ・琵琶湖を支えて来た里山
四手井先生の門下生である、名古屋大学名誉教授、国民森林会議会長 只木 良也先生執筆（2010年3月202号）
- ・里山と琵琶湖と暮らす
里山の概念を広げた、写真家の今森光彦さんについて
千葉 有紀子執筆（2010年3月202号）

里山で自然を感じる

京都の東に位置する法然院の森は、自然林に近い形で、常緑広葉樹がこんもりと繁った11ヘクタールの寺林です。田畑とともに人々が手を入れながら育ててきた里山とは少し違って、自然をありのままに近い形で楽しむ里山です。ここで活動する、フィールドソサイエティー事務局長の久山慶子さんに、里山の楽しみ方のヒントを教えてくださいました。

(まとめ/ニュースレター編集部 有川 真理子)

虫食い落ち葉から広がる世界

都会で暮らしていると、ついつい、人間が世界を動かしているように錯覚してしまいますが、人も地球の生態系の中で生きている生き物です。そのことを身近に実感できる場所、それが里山です。里山の森に入ると、生き物はそれぞれに役割があることに気づかされます。

たとえば、虫食いの落ち葉。「どんな虫が、どういふふうに着いたんだろう？」と考えることで、一枚の葉が、虫からそれを食べる鳥、そして……とさまざま



お寺の森では、虫の食べあとのある落ち葉だけでなく、樹上で暮らす哺乳類・ムササビの食べ痕のある葉も見つかる
(法然院森のセンターにて撮影)

な生き物につながり、実は、人もその循環の中で生きていることを思い出すヒントとなります。

子どもと里山に

子どもの頃の自然体験は、人も自然環境の中で生きているということを感じるための貴重な経験です。森に入ると、きっと子どもの五感フル回転し始めるでしょう。座り込んでひたすら落ち葉をめくる、曲がった枝を大事に集めるなど、子どもたちがそこから何を感じているかは、大人にははかり知れません。ぜひ一緒にその時間を大事にしてください。目的を持たずに、感じるままを楽しむことも大切です。

自然を理解する

自然にはわからないことがある、人にはどうにもできないことが自然にはある、そんな感覚を日常的に感じてほしいと思います。それと同時に、自分が生きている世界って素敵だという思いも日常的に実感してほしいのです。人は自然環境と対峙して生きているのではないという本質を理解することが、環境問題の解決には必要不可欠です。身近な里山は、その本質に気づかせてくれる場所だと思います。



里山を楽しむヒント

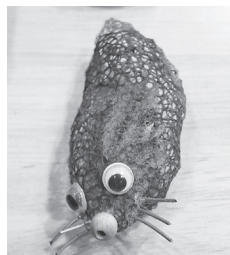


1. 里山に入ったら五感をフル回転！

匂いをかぐ、触れる、音をきく、みる。感覚をフル回転させて、山の気配を感じようとするのが大事です。何かを探してみる、くぼみをのぞいてみる、葉っぱをめくってみる。小さな子どもとだったら「不思議なものがいそうだね！」と想像をふくらませてみるのも一計です。

何かをみるときは虫眼鏡を使ってみましょう。世界が広がります。春ならではの新芽の観察もおすすめです。

🔍 表紙の写真



クスサンの蛹が羽化したあとに残された繭はスカシダワラとも呼ばれ、昔から子どもたちが遊んでいたとか…目と鼻とヒゲをつけてみると！
(法然院森のセンターにて撮影)

2. 何かを発見したら、生き物の暮らし振りに想いをはせてみましょう。 きっと世界が広がります。たとえば……

● **鳥の巣** 使い終わった鳥の巣をみつけたら、何を巣材にしているか調べてみましょう。巣は、卵を産み温めるためのものです。巣を頑丈に、清潔に保つための工夫を発見することもできます。

● **木の実** 木の実やタネをみつけたら、どうしてこの色や形になったのか「植物の思い」を考えてみましょう。木の実には、鳥に食べられて遠くに運ばれようとする工夫が感じられるものもたくさんあります。

● **木の花** 木の花も咲く季節です。高い梢に咲く花は、降りてくる匂いで気づかれます。虫をよんでいるのです。虫の羽音がうなづきこえてきて、花の存在を知ることもあります。何でも想像を膨らませて観察すると、扉が開くように面白さが感じられたり、興味が湧いてきたりして、きっと里山歩きが楽しくなります。



見つかると、鳥たちの温かさが伝わってきて嬉しくなる鳥の巣。使い終わったものが、枝に残っていたり、落ちていたりする (法然院森のセンターにて撮影)

● フィールドソサイエティー

1985年にお寺と市民の二人三脚で開始された「法然院森の教室」を母体に、1993年に発足。「地球規模で考え、足元で行動する」をモットーに体験を重視した幅広い環境学習活動を行っている。身近な自然を紹介するギャラリーや自然関連図書の文庫を持つ共生堂＝法然院森のセンターを運営する。URL：<http://www4.ocn.ne.jp/~moricient/>

● 法然院森のセンター

住所：〒606-8421 京都市左京区鹿ヶ谷法然院町 72-2
 会館時間：午前10時から午後5時(入館無料)
 休館日：火曜日(祝日の場合は開館、翌日を閉館)
 第一、第三月曜日、年末年始(12月28日～1月5日)
 その他、夏季など臨時休館もあり



学ぶ

里山と関わりながら

里山には多くの学びが詰まっています。里山保全やその資源利用を通して、身近な魅力を発見することができます。滋賀県の農村の魅力発信プロモーション業務事業に携わっているNPO法人木野環境の藤井亜希子さんに、おすすめの里山を紹介していただきながら、その魅力をおうかがいしました。(まとめ/ニュースレター編集部 村田 諒平)

すぐ行ける滋賀の里山

誰でも楽しめます！ 里守隊
(東近江市愛東地区)

東近江市愛東地区で、子どもたちも遊べる里山を取り戻そうと2005年から里山整備のボランティアが始まりました。月に一度、枯れたマツの伐採、薪割り、下草払いなどを行っています。山仕事の経験者から初心者、親子連れまで幅広い層が参加しています。切った薪を運ぶなど、初心者でもできる簡単な仕事もあり、誰でも気軽に里山整備を体験できます。

(詳細、申込み等：<http://www.inakataiken.com/data/html/669.html>)



**道の駅で里山の文化を感じるひとときを
国境炭焼きオヤジの会**
(高島市マキノ町野口地区)

中山間地の過疎高齢化という問題を抱え、村を活性化しようと、約50年前まで使われていた炭窯を修復して炭を焼いています。半世紀ぶりに復活した炭は「^{むーたん}夢炭」(P6左上写真)と名付けられ、高島市マキノ町の道の駅マキノ追坂峠で販売されています。また、炭で焼いた餅が人気商品で、運が良ければ、国境炭焼きオヤジの会の方から昔話を聞きながら食べるができるそうです。最近では新しい試みとして、炭の粉を利用した炭石けんづくりも始まっています。(詳細、申込み等：<http://www.inakataiken.com/data/html/632.html>)

里山が持つ身近な魅力

探してみると、マキノ町の炭焼きのように昔のおもしろい文化が見つかったり、木を伐って喜ぶ人がいたり……。「何もない」と思い込まれがちな里山で、山仕事や炭焼きといったような地域資源が見直されてきています。その魅力は、単なるレクリエーションや伝統的な文化体験に留まりません。暑い季節でも汗をダラダラ流しながら楽しそうに仕事



マキノ町「夢炭（むーたん）」



里守隊の活動

をしている人がいたり、遠方の都市からわざわざボランティアに通ってきている人がいたり、田舎の体験にあこがれている人が意外といるそうです。中には、本当に移住してしまう人もいるくらいです。

参加者の声

「山仕事をしているから、メタボには縁がない」、「仕事の疲れが癒される」といった声が聞かれるそうです。心も体も癒されながら里山の保全活動に取り組み、これまで使い道があまりなかった間伐材を薪ストーブの燃料として持って帰ることもでき、まさに一石二鳥です。親子で参加された方からは、「子どもの生きる力が身についていく様子を見るのが楽しい」と、たくましさを育む教育の場にもなっているようです。大人も子どもも熱中することを見つけられる里山は、充実した休日を過ごせる場所ではないでしょうか。

滋賀の里山のイベントや活動情報などを探す際には、下記のサイトの利用をおすすめします。子どもが参加できるかどうかなどの細かい点もわかりやすく記載されていますので、ぜひ活用してください。

森づくりネット・しが

<http://www.pref.shiga.jp/d/rimmu/moridukurinet/>

楽しむ

畑コーヒー

不意にまったりしたいと思うことがあります。そんな時はきまってカフェでコーヒーを。カフェには日常とは違った不思議な時間が流れているのでしょうか。でも、これがカフェではなく、畑だったら……。つまり「畑コーヒー」。それもありでしょうか。

(まとめ/ニューズレター編集部 衣川 正和)

「畑コーヒー」を提唱するのは、京都府亀岡で無農薬農法を営む大江広一郎（32）さん。山陰本線の亀岡駅から車で30分ほど奥まったところにある里山。山を背景に豊かな農地が広がっています。その場に佇んで



大江 広一郎さん

いるだけで、私たちは自然に包まれているのだと感じます。とりわけ都会に暮らす人にとっては、風景そのものが清涼剤となります。そう感じるのは、自然には作為がないからなのでしょう。自然のサイクルを活かすことで、次へと繋がる。人がほんの少し意識的になるだけで、自然はそれなりに回っていきます。山林からいただく栄養分、地中の虫たち、そして時には農作物を食い荒らす動物たち。そういったものすべてが自然であり、自然に包まれた私たち、というのではなく、私たちも自然の要素のひとつだと感じます。

「畑コーヒー」は、大江さんと消費者との繋がりから生まれました。大江さんの販売形式は配達で、人との繋がりがメイン。週に2度、大江さん自らが消費者

に届けるという方式です。スーパーでの買い物と違い、そこには、生産者と消費者の、相互に顔が見えるという双方向性があります。その結びつきから生まれたのが「畑コーヒー」。もちろん、その中でお酒やビールもあります。各自一品持ち寄りの畑ピクニック。動機はいたってシンプルで、「自然の中で、みんなとコーヒーを楽しみたい」。それ以外になにも望まない、それ以上でも以下でもないといいます。

しかしシンプルであるからこそ色々なことが分かります。屋根の下ではなく、青空、緑、土、空気という舞台装置。その中で飲むコーヒーやお酒。グラスになみなみと注がれた琥珀色のビールを青空にかざす。たとえお酒が苦手な人でも、身も心も開放されそうです。そして、ふだん何気なく口にしている食物を育ててくれた土の香り。私たちは食事をとるとき、食べ物に「いただきます」と感謝の気持ちを込めますが、催しに参加した人は、土にも感謝、と思うようになります。コーヒーを飲みながらのひと時の会話、そしてお酒。それに疲れたら、土の上にゴロンと仰向けになる。大空をじっと眺めているとうっかり眠ってしまいそうです。山から聞こえてくる小鳥たちのさえずりに耳を傾けるのも楽しそうです。それとも、ちょっと顔を横に向ける。ひょっとすると、人に驚いて土から顔を出す虫たち、

それともあわてて土の中に身を隠そうとする虫を観察できるかもしれません。理科で習った虫たちもいますよ。そっとしておいてあげてくださいね。もし虫嫌いだったら、草花に目を向けるのもいいでしょう。草花の名をいくつ言えるのでしょうか。自然界は知らない草花で満たされている、そんなふうを感じるかもしれません。そして、なぜそんなに多くの種類の草花が生育しているのかと。それぞれの草花は、それぞれ代わるがわる勢いを増しては消えていきます。同じ草花でも勢いを増す時期が微妙にずれ、大きく上に伸び花を咲かせ種をつけると、1週間後にはまた別の草花が伸びています。私たちは1年を春、夏、秋、冬の四季で捉えますが、草の世界ではより細やかな季節を生きている、そんなことにも気づかされます。草花の生育の微妙なズレとバランス、それがあからこそ調和がとれる。1年を4つの区分でしか感じない人間は、ひょっとすると退化しているのかもしれない。

「自然の中で、みんなとコーヒーを楽しみたい」。そんな気持ちの先には、はかり知れない自然の深さが見えてくるようです。そして、そこからは、農業のあり方も透けて見えてくるかもしれません。



自然と手をつなぐ —畑の棚田オーナー制度を通して—

そこには精魂こめて人の手で築かれた芸術とも言うべきものがありました。それは、祖先伝来守り続けられている棚田です。棚田は、食糧を生産するだけではなく、多様な生物が暮らす場をつくり、洪水や土砂の流出の防止や地下水を貯えるといったさまざまな働きを持っています。また、棚田は豊かな生態系や自然景観にふれあうことで人々の心にやすらぎとぬくもりを与え、自然の素晴らしさを学ばせてくれます。

しかし、農業従事者の高齢化・後継者の減少や社会構造の変化に伴い、棚田は危機的な状況にあるのが現状です。

今回、滋賀県内で唯一農林水産省の日本の棚田百選に認定されている高島市畑の棚田を訪れ、棚田オーナー制度実行委員会役員兼畑区区長の林典男さんにお話を伺ってきました。(まとめ/ニュースレター編集部 高橋 めぐみ)

Q. まず、棚田オーナー制度とは一体どのような制度なのでしょう？

A. 約一年、一区画をひと口30,000円で田んぼのオーナーになってもらいます。オーナーになった方は、農作業体験として田植えや稲刈りを行い、収穫したお米やお酒を受け取ることができます。

Q. オーナー制度には、どのような層の方が多く応募されているのでしょうか？

A. 京阪神を中心とする都市生活者の方が多いです。また、「子どもにも農作業体験をさせたい！」という子ども連れのご家族の方も多く応募されます。毎年、収穫時期などには棚田は賑わいを見せています。

Q. 棚田の保全は、里山の保全とどうつながるのでしょうか？

A. 棚田も里山も生物の宝庫です。人の手が入ることによって、植物や昆虫が数多く生存しています。棚田を保全することで、生物多様性を守り維持し、里山に生息する生物たちも共に豊かに暮らしていけるのです。自然は自然で補われ、つながり、共生していますが、そこには人の手も時には必要なのです。また、先人が苦勞して山間地を切り開き築き上げた棚田は日本が誇れる美しい風景であり、いつまでも残していきたいと思っています。

Q. 区長さんが、棚田の保全を意識されたきっかけとオーナー制度の現状を教えてください。

A. 私は畑^{はた}で生まれ育ち、幼いときから棚田を見てきました。今から20年ほど前に本格的に農作業に取り組み「日本の文化としての棚田を守りたい！」と保全を意識しました。そして棚田の機能を知ることで、よりその気持ちは強くなりました。1999年7月に日本の棚田百選に認定され、多くの人の保全意識も芽生え、翌年2000年には「畑の棚田を守ろう会」が発足しました。棚田オーナー制度や棚田保全ボランティアなど、大学や民間企業とも連携し幅広い交流を行い、制度を始めた当初は56人だったオーナーさんも現在では300人近く集まり最近では募集人数を超えてしまいます。また、この制度のおかげで、減り続けていた棚田を維持することができています。

Q. では、多くのオーナーさんがお手伝いをして下されば、棚田もきちんと潤い保全されますね？

A. 就農者がいなければ、オーナー制度だけでは棚田は保全されません。今までオーナー制度を通して移住された方は4件おられますが、今現在、新規就農者と共に集落の役員の新規の方もいない状況で、これからの課題として考えています。少し前から農家宿泊を始めました。宿泊を通して体験から滞在、そして移住から就農、それがめざすところです。せっかくオーナーさんがたくさん集まってくださっても、サポートする者がいなければ大変難しく制度を持続していけるのかわかりません。もうひとつの課題は、棚田保全ボランティアの参加者が年々減少していることです。最近では10

人にも達せず、昨年は5人と大変寂しかったです。畑の棚田オーナー制度は、リピーターの方が多く、それだけ棚田や農作業により関心を持たれたということであり、良いことだと思う反面、まだ、多くの人には浸透しておらず、まだ里山・棚田保全の認識、活動の認知度というのは薄いのだと感じています。

Q. これから保全活動を続けていくにあたり、若者たちに伝えたいことはありますか？

A. 棚田は、先人が苦勞して山間地を切り開き築きあげた日本が誇れる美しい風景です。棚田の役割を理解し、棚田の意義、そして里山の意義、共生すること、自然の偉大さや尊さ、それらを見て触れて感じて欲しいです。



(写真提供：高島市役所高島支所)

最後に...

取材が終わったあと、高島支所の方と区長さんに棚田を案内して頂きました。その景色を眺めると「春夏秋冬、朝も昼も夕方も夜も、全ての顔が見たい！」と欲張ってしまうほど、自然、棚田の美しさに心を奪われ、なんだかほっと落ち着きました。

春には植物が顔を出し、夏にはカエルが合唱し、秋には黄金色の穂がなって、冬は春がくるのを待てるように。守っていききたい、全ての季節に出会えるように。里山も棚田も、美しい風景の裏には先人や今尚必死で守っておられる人々の努力があるのですね。

さあ、棚田に出かけてみませんか？ 美味しい空気をお腹いっぱい吸いましょう！ 両手を広げて、大きな伸びをして、きっと身も心も元気満タン間違いなしです！

行事案内

京 環境市民 東 環境市民東海 滋 環境市民滋賀

京 1 Day ボランティアデー

毎月エコな話題をおしゃべりしながら会報誌みどりのニュースレター発送作業をしています。どなたでも参加できます。環境市民の事務所ってどんなところ？ どんな活動をしているの？ などいろんな質問にもお答えします。新しい事務所を見てみたい、と思う方もぜひお気軽にご参加ください。

- *とき：4月26日(木) 午後2:00から午後7:00頃まで
- *ところ：環境市民京都事務所
- *備考：予定時間を過ぎて来られる場合は、ご連絡ください。

京 チクチク縫いもの♪ 第4回ぬいカフェ

3月のぬいカフェには、リフォームの達人の参加がありました。これまでの作品を見せてもらいつつ、裂き織りでのルームシューズづくりや、穴あきセーターのつぎあて、2月の続きでジーンズの補修など、おいしいおやつをおともに盛り上がりました。

もう着られない、使えない、しまい込んだままの服たちが、ちょっとした手仕事でよみがえっていくのはうれしいものです。一人ではなかなかできなくても、集まってワイワイ取り組めば、楽しくできますよ。さあ、あなたもぬいカフェで、リフォーム・デビューしちゃいましょう！

- *とき：4月14日(土) 午後1:00から4:00
 - *ところ：環境市民京都事務所
 - *参加費：カンパ制(材料費、茶菓子代)
 - *持ち物：
 - ・作りたいものや直したいものがある人は、その材料、現物と裁縫道具。
 - ・特に決めてない人は、カワイイふきんを縫いましょう。
 - ・みんなで楽しみたいお菓子やお茶(大事！)
- ※ふきん用の生地と糸などはご用意できます。好きな生地と糸を持って来てもモチロンOK。あとは針、指ぬき、はさみ、(あれば)チャコペンなど。裁縫道具がなくてもとりあえず来てみてね。
- *申込み：環境市民京都事務局。飛び入り参加も歓迎しますが、準備がありますのでできるだけ申込みをお願いします。E-mail: nuicafe@kankyoshimin.org

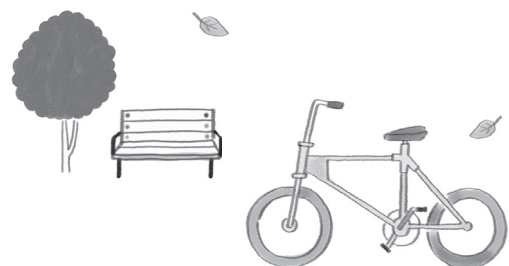


P13の布小物は、いちごの「あめちゃん入れ」でした。あめは実の部分にたくさん穴がありそこから入れます。

京 いまからワタシも！ サイクリスト入門連続講座(全5回) 【第1回】乗り方と整備の基本

「暮らしの中に自転車を活かす人＝サイクリスト」の入門講座を始めます！「通勤・通学や買い物などで乗ってるよ」という人も、これから本格的に乗ってみようと思っている人も、安全で快適な自転車での走り方から持続可能な社会づくりに自転車に果たす役割まで、実践を交えて考えてみませんか。第1回は「乗り方と整備の基本」。今日から実践できる交通ルールと手軽なメンテナンスを実技で学びます。各回単発での参加も可能ですが、全5回連続参加(参加費割引あり)をオススメします！

- *とき：6月10日(日) 午後1:30から5:00
 - *ところ：東山いきいき市民活動センター1階 第4会議室(京都市東山区花見小路通古門前上る巽町450番地/地下鉄&京阪「三条」駅から東へ徒歩5分)
 - *参加費：第1回のみ単発参加 1,000円
※全5回通し 6,000円(保険代込み・交通費は別)
 - ※環境市民の会員向け割引あり。詳しくはお申し込みの際にお尋ねください。
 - *持ち物：筆記用具。自転車で来られる方は自転車でお越しください。
 - *定員：12人(先着順)
 - *申込み・問合せ：環境市民事務局まで。
 - *備考：雨天決行。
なお、第2回以降は以下の予定です。
第2回 7月8日(日) 街乗り・伏見へ
第3回 8月5日(日) 座学・海外自転車事情
第4回 9月9日(日) 日帰りツアー・琵琶湖へ
第5回 10月7日(日) 私が選ぶ自転車道
- *主催：スローモビリティライフプロジェクト実行委員会
*協力：環境市民、LLP自転車ライフプロジェクト
※スローモビリティライフプロジェクト実行委員会とは……コンパクトシティとスローライフの実現を本気でめざす人々・団体のネットワーク(2012年4月発足)



環境市民 入門講座 野の塾シリーズ

環境問題や持続可能なまちづくりに関する話題を分かりやすく紹介する講座です。

春の里山で、生きもの世界の不思議を感じよう。 ～“春の妖精”に会いに行こう！～

環境市民では、「野の塾」と題して、だれでも参加でき、楽しく、ためになる環境イベントを1、2か月に一度、様々なテーマで開催しています。

今回は「里山と生きもの」をテーマに、京都西山に環境市民が借りている里山と、その一角に建てた山小屋（こもれび小屋）に行きます。



人の暮らしを支えてきた里山が、多くの生きものたちの暮らしを支えてきた。そんな「物語」を、“春の妖精”と呼ばれる花たちを愛でながら、感じてもらいます。



＊とき：4月15日(日)午前9:00から午後4:00まで(雨天中止)

＊ところ：阪急電車 京都線桂駅 西口 西2番バス停付近 集合

＊目的地：京都市西京区大原野 大暑山山中 環境市民こもれび小屋

＊持ち物：弁当、水筒、雨具、軍手、歩きやすい靴。あれば、ルーペ

＊参加費：800円 環境市民会員は500円(保険代含む、交通費は別)

＊定員：20人 (定員に達した時点で締め切ります)

＊申込み：お名前、連絡先電話番号を電話、FAX、メールにて環境市民までお申し込みください。

＊締切：4月12日(木)

＊申込み：環境市民京都事務局

E-mail : life@kankyoshimin.org

※メールの場合、タイトルに「野の塾4月イベント申込み」とつけてください

チーム・バベルは仲間を求めています！

映画「バベルの塔」上映会 企画メンバー募集

3月11日に起きた原発事故によって原発の安全神話が崩れました。

今回、福島原発事故の取材、そして原発の問題についてつくられたドキュメンタリー映画、それが「バベルの塔～続 24000年の方舟」です。

環境市民も映画の一部で登場しています。

より多くの人に、原発の問題を知ってもらうため、この映画の上映会を開催することにしました。そこで、一緒にこの映画の上映会を行うメンバーを募集します。特に学生や若い人に関心をもってもらいたい、企画に携わってもらいたいと考えております。より多くの人に原発問題を知ってほしい、多くの人に伝えたい！と思っているみなさん。ぜひ私たちと一緒に上映会を開催しましょう！関心のある方はお気軽に環境市民までお問い合わせください。



📻 ラジオチームミーティング

京都三条ラジオカフェで毎週月曜日に放送している「エコまちライフ」を担当するラジオチームのミーティングを行います。

ラジオや番組制作に関心のある方は、ぜひお越しください。

＊とき：4月4日(水)午前11:00から午後1:00
※この日のミーティングはランチ付きミーティングになる可能性があります。その場合、お昼代が必要ですが(千円以内の予定)。

＊ところ：環境市民京都事務所

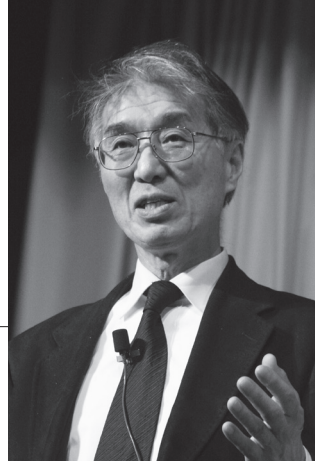
新入会/寄付 (2月1日から2月29日まで)

〈新入会〉大垣 秀樹/小谷 倫加恵/古賀 円
藤田 アニコー

〈寄付〉積水ハウス(株)

3.11.後の 世界で

3.11.以後、世界は大きく変化しました。環境市民ニューズレター編集部がこんな人にこんな事を聞いてみたい、そんなコーナーをスタートさせました。第1回目は、京都大学原子炉実験所 助教の小出裕章さんに、福島第一原発の事故についてお伺いしました。(インタビュー3月4日)



事故は防ぎようがない

Q: ドイツの原発の現状を撮ったドキュメンタリー「アンダーコントロール」という映画を見たのですが、何重にもバックアップをかけていました。もしも、はないですが、もし十分な対策をとっていたら、事故は防げましたか？

A: ドイツがやっているようなことは、日本でもやっています。少なくともやっているとやっているし、技術もある。どんなに対策をとったつもりでも起こってしまうのが事故です。そして原発で事故が起きれば、大変なことになる。だから原発は止めるべきです。

これからは廃炉の研究が必要

Q: 国策として廃炉を決めたドイツでは、今廃炉が進んでいます。それ以前に、ある炉について廃炉の是非をたずねた住民投票では、実際のところ数パーセントしか賛否の差がない事実に驚きました。ミュンヘンの大学では、まだ原子力の研究もしています。廃炉の研究も進んでいますが、推進しているフランスを含め、これから世界はどう動くでしょう。

A: 廃炉は大切です。おろかな日本という国は、こんな状態になっても、まだ原子力を続けると言っています。そのうえ、輸出まですると言っている、ほんとうに嘆かわしいことです。どこでも、原子力の旗を振りたい人はいます。でも、原発推進国フランスももう、終わりが見えています。これだけ危険なことがわかっているのですから。1999年には、日本の東海村のJCOで臨界事故が起こってしまった。もともと臨界事故は1970年代に根絶されたと言われていたにも拘らずです。そのときは、管理がずさんな日本だからこそ起きたと世界から言われました。でも、事故というものは防ぎようがないのです。ですから、これからは終わるための研究もすべきなのですが、研究者が育っていません。

この事故はどう終息するのか

Q: 野田首相が、福島での事故の終息宣言をしましたが、まだ全く終息していませんよね。本当の意味での終息はどうなりますか。

A: 一番、近い形の事故がスリーマイル島の事故です。原子炉が溶け落ちたと思っていたら、実は何年かして

お釜の蓋を開けてみたら、炉心は半分だけ溶けて底に残っていた。だから、ああ助かった、とつまみあげることができたわけです。今回は、もう完全に溶け落ちて、お釜の底を突き破っているわけですから、桁違いです。「まだ、放射能を閉じ込める防壁である格納容器の底が30センチ残っているから大丈夫だ」などと言っていますが、見ていないのですからわかるはずがないのです。今、何がどうなっているのか、本当のところは誰にもわからない。炉心を回収できるかどうかはわからない。

何をもって終結とするのかにもよりますが、おそらく、とりあえずの終結をさせるまでに30年、40年、もっとかかるかもしれない。チェルノブイリのように石棺を作ったとしても、それは何年かごとに作りかえないといけないでしょう。最初の石棺をつくるまでに、10~20年はかかると思います。第一の石棺を私は見ることはできるでしょうが、二つ目からは見ることはできないでしょう。それだけの時間を要することになります。

一番危ないのは4号炉

Q: 今、いちばん憂慮すべきことは何ですか？

A: もちろん全てにおいて、予断を許さないのですが、もっとも危ないのは、4号炉です。使用済み燃料プールに200トンを超える使用済み燃料が入っています。1331体の使用済み燃料集合体です。これは通常の548体の2.5倍という凄まじい量です。これは冷やし続けなければならず、本当は大きな余震が来る前に、安全な場所に移す必要があるのですが、それをつり上げるクレーンも何もかも吹きとんでしまっている。燃料プールの中にながれきが落ちて埋まってしまっています。それを取り除き、燃料集合体を安全なところに移さないといけません。先にいった石棺もこれをちゃんとしてからです。今この建物は建屋だけがかるうじて残っている状態で、また大きな余震でもあれば、崩れ落ちてしまう。そうなれば、もう手の施しようがありません。早急に対策を講じるべきなのですが、何分にも放射線が強すぎて、何をしても作業員の被曝が心配です。大きな余震がこないことを祈るばかりです。

(インタビュー・写真 千葉 有紀子)

第3回「ぬいカフェ」

手作りお菓子とお茶を楽しみながら、
お気に入りの布や糸でチクチクぬいぬい♪



「ぬいカフェ」第3回の開催は、東日本大震災からちょうど1年目の3月11日(日)。午後2時46分には、参加者全員で被災地の方角へ向けて黙祷を捧げ、震災の話、脱原発の話も交えながら、広く環境の話に花が咲きました。

今回のテーマは前回に引き続き「リフォーム」。リフォームの達人で「なにわのマータイさん」とも呼ばれるS本さんにご参加いただき、作品の紹介や「簡単裂き織りルームシューズづくり」の実演をしていただきました。

ユニークな作品群もさることながら、パワフルなお話に、初参加の方も引き込まれっぱなし。賑やかな会となりました。



S本さん、初参加者にリフォームのコツを伝授

裂き織りとは、弱くなったり汚れてしまったりした着物の生地を使いきる究極のリフォーム術。生地を細く裂いて^{よこいと}緯糸に使い、強い^{たていと}経糸と組み合わせることで、帯にも使える強度と、独特の質感、偶然性を味方に付けた配色の妙が生まれます。まさに暮らしの中の美意識の粋。

でも「織るっていうと、織り機とかいるし、すごく大変なんじゃない?」そうお思いの方も多いのではないのでしょうか。が、さにあらず。今回のルームシューズの^{はた}機は、たまたまそこにあった裁

縫箱のふた。あと用意するものは、着られなくなったTシャツなどを紐状に切った材料と、セロテープのみ。工作気分であつという間に一足できあがりました!

こんなことをきっかけに、親子でリフォーム・デビューなんていうのもいいかも知れませんね。



簡単裂き織り
ルームシューズ
作成中

完成!



そして、お待ちかねのおやつタイム。今回もご覧の手作りお菓子に、さまざまな薬効があるというお茶をご用意しましたよ。なかなか好評♪



本日のおやつ
バナナとレーズンのソーダブレッド、パンデピス、切干大根の米粉ケーキサクレ、白みそクラッカー、クリスピーチョコレート、紅茶五種、自家製桑茶+祝島のびわ茶ブレンドティー

最後にこの日の作品がこちら(写真①)。前回の続きのジーンズ補修とS本さんの裂き織り&編物作品。穴あきセーターのリフォームは、別の虫食いセーターを、好きな形に切ってアップリケしました。

そして写真②、何だか分かりますか？ ヒント、大阪のオバサマ必見です。答えは9Pへ。



(文/ぬいカフェプロジェクト 池田 浩子)

次回は4月14日(土)午後1時からの開催予定です。土曜日の昼下がり、ゆるっと「ぬいカフェ」いかがですか？(詳しくは9Pへ)

サイクリングの
季節到来!

京都自転車マップ 京都市内版・京都郊外版

自転車で走りやすい道・危険な道・おすすめコース・休憩ポイント・すべての道路・自転車店・コンビニ・銭湯から公衆トイレなどサイクリングには欠かせないポイントを紹介しています。

種類は「京都市内版」「京都郊外版」の2冊。各々地図とお勧めコース紹介の冊子が、ジッパー付ビニール袋に入っています。地図は水濡れ・折目破れに強い特殊紙を使用。各書店および主要自転車店でも販売しています。



【編著者】

NPO 法人環境市民・LLP 自転車ライフプロジェクト

【地図のサイズ】約 60 × 90cm

【冊子のサイズ】

A5 変形、48p、全頁カラー、中綴じ

【発行】西日本出版社

【価格(税込)】市内版 1,000 円 郊外版 1,100 円

【送料】1冊 80 円、2冊 160 円。

それ以上はお問合せください。

【支払い】郵便振込後払いになります。

振込手数料はご負担ください。

【申込み方法】

郵送希望の場合は、お名前、ご住所、電話番号、E-mail、「まちなか版」「郊外版」それぞれの希望冊数を明記の上、「京都自転車マップ希望」と記入し、環境市民までお申し込みください。ボランティアにより発送を行うためお申し込みから1週間程度のお時間をいただきますのでよろしくお願いいたします。環境市民京都事務局で直接販売もしています。



みどりの特派員便り

✿ 全国で活躍する環境市民の会員さんが、「みどりの特派員」として地域の活動や思いを紹介します。

久留 正成さん
鹿児島県鹿児島市在住

環境ビジネス促進で 地域雇用を増やしたい

鹿児島にUターンしてちょうど10年が経ちました。NPO法人エコサポートTGAL (Think Globally, Act Locally) (注1) を設立し、中小企業が環境の視点で改善を行うと同時に、組織の活性化、経営体質を強化するお手伝いをしています。京都で創設されたKES (注2) の九州唯一の協働機関でもあり、これまで約500社のKESやエコアクション21 (注3)、そして鹿児島市環境管理事業所のコンサルティング・審査を通して、中小企業の環境保全を支援してきました。この10年間で、環境意識が高く改善力のある仲間も増えてきました。最近の3年間は、特に省エネ診断・改善とカーボン・マネジメントを支援するためにエコサポートTGALの会員が専門資格を取得し、できることから活動を推進してい

ます。昨年は「エネルギー管理士」「地域カーボン・カウンセラー」「家庭の省エネエキスパート」などの資格者が増え、「小学校省エネ出前講座」「うちエコ診断」「エコ検定対策講座」などを実施しました。また環境ビジネスの促進により地域に雇用創出できないか調査・研究、自治体などとの連携を模索しています。

中小企業環境経営支援の実績をベースに、さらに「環境経営とエネルギーの専門家集団」として、地元での教育・コンサルティングなどの事業を強化していきたいと思っています。

(文/本会会員 久留 正成)

▼NPO法人エコサポートTGALのウェブサイト
URL <http://www.geocities.jp/>



小学校省エネ出前講座の様子

(注1) Think Globally, Act Locally: 「地球の視野でその健全性を考えつつ、自らが暮らす地域で行動しよう」を意味するスローガン。環境分野以外に都市計画や教育などの分野でも使われる。

(注2) KES: 京都 (Kyoto) 環境マネジメントシステム (Environmental Management System) スタンド (Standard) の略称。ISO14001 に比べて簡易な仕組み、低コストで導入が可能。

(注3) エコアクション21: 環境省が策定したガイドラインに基づく環境マネジメントシステム。

インフォ@エコ

✿ 環境に関するオススメの本、映画、音楽などを紹介します。



「里山だより」

今森光彦 (写真・文)、2011年、毎日新聞社 (2500円+税)

「里山を歩こう」

今森光彦 (写真・文)、2002年、岩波書店 (980円+税)

今森光彦さんは里山を撮りつづけている写真家。片手で持ち運べるサイズの『里山を歩こう』には、里山に馴染みのない人でも遊び

に行けるように、冒頭に親切な注意点が書かれています。里山の魅力がコンパクトに詰まっており、里山入門にはぴったりです。

『里山だより』は、ヒキガエル、フキノトウといったようにテーマにあわせて、ダイナミックで鮮やかな写真が飾られており、里山の無駄のない美しさに圧倒されます。季節の流れに合わせて、里山の風景が移りゆく姿から、里山そのものがひとつの生きもののように脈を打ち、呼吸をしている感じが感じ取れます。また、自然のリズムに合わせて、人間の営みが存在している様子が描かれています。自然に真摯に向き合う人々の顔は、人間本来の姿なのではないかと思ってしまうくらいです。

都市で生まれ育った私にとって、里山はあまり知らない世界でありながら、どこか懐かしさを感じるの不思議です。普遍的な美しさや優しさが、そこには存在する気がします。
(文/ニュースレター編集部 村田 諒平)

●みどりの特派員募集中!● みなさんの近況をお知らせください

(MAIL) newsletter@kankyoshimin.org (FAX) 075-211-3531

(郵 送) 〒604-0934 京都市中京区麩屋町通二条下る225 第二ふや町ビル405号室
NPO法人環境市民 みどりのニュースレター編集部 宛

SKIPの! エコファイト劇場

vol. 62



環境共育チームSKIPの環境プログラム「エコファイト劇場」をモチーフとしています。

イラスト:かわみん



環境市民

かんきょうしみんぶんのいち

★環境市民の会員を紹介します

no.83 藤田 アニコーさん

ハンガリーのバラトン湖近くの街の出身。草津市にある近畿環境保全株式会社・非営利団体循環型社会創造研究所えこら勤務。



捨てればごみ、でも循環すれば資源。

ちよつと意識を変えるだけ

なぜ捨てる？

ハンガリー出身のアニコーさん、日本に来てびっくりしたのは、なんでもかんでも捨ててしまうことでした。「コンビニはあつちにもこつちにもある。それに、消費期限が近くなった商品も値段を下げることもなくて、いきなり捨ててしまう。それにリサイクルできるものも、捨ててしまう。そうしたらもうそれはごみではない」。

ハンガリーでは、缶やビンなどの買い取りも高く、またデポジット(保証金)がつけられているものがあるため、捨ててしまう人は少なく、それは他の資源にも言えるとアニコーさんは言います。「テレビでもなんでも、映ればもちろん使い、映らなければ直す、直せなければばらばらにして、再利用できるパーツを売る人もいる」。実際のところ、ハンガリーでは当たり前で日本から見るとエコだということもよくあるそう。

もともと日本に興味があったアニコーさん、個人的に日本語も習っていました。そして、1年間の語学留学を終えて一旦帰国。再度日本にやってくる、経済学部で3年間エコマーケティングを研究します。大学院を修了後、選んだ就職先が、リサイクルをする近畿環境保全株式会社でした。そのために大阪から草津に

引越してきました。

引越の際、アニコーさんのご主人もそれを機に仕事を辞めて、一緒に引越してきました。そしてご主人は、準備期間を経て、2010年の5月から低農薬農業を始めました。低農薬の野菜作りから始めて、いよいよ無農薬へと、少しずつ軌道に乗ってきているということです。「野菜もね、ハンガリーでは虫がついていても、それほど気にしたことにはなかつたけれど、日本人はきれいなものを欲しがると、それが問題だね」。湿気の多い日本は虫がつきやすい、でも虫が付くと売れない、だから農薬を使わざるを得ない。「意識が大切ね」滋賀県は農業を始めるのに適した環境で、ちよつと良かったとのこと。また、ハンガリーのバラトン湖の大きさと景色は琵琶湖と似ていて、懐かしさを感じると言います。

持続可能な社会をめざして

会社に入ってから、社長と他の仲間と一緒に非営利団体である循環型社会創造研究所えこらを立ち上げました。えこらでは、市民や団体、企業とコラボレーションしながら、持続可能な社会を創ろうとしており、回収した資源ごみをリサイクルし、利益の一部を琵琶湖の環境保全のため

めに寄付もしています。「捨ててしまえばごみでしかない、缶、ペットボトル、古紙、段ボール、古着、廃食油などを、資源として循環させることができる」。

「ただのごみだと思っていたものが、ちゃんと価値があるのだとわかると、もつと大切にしてくれる、その意識が大切。日本は資源が少ないというけれど、ちゃんとまわしていければ、輸入する分は少なくしていけるはず」と、環境学習のプログラムやイベントも行っています。

近畿環境保全株式会社は「滋賀エコ・エコノミープロジェクト」の第2回で、低炭素リーダー賞を受賞しました。この賞は現在第3回の審査中で、このインタビューの翌日も、そのセミナーの場で、会社についてスピーチをする時、アニコーさんはとても意欲的でした。

仲間募集！

会社としても個人としても、いろんなイベントに挑戦しているアニコーさん。ハンガリーのエコなお菓子を紹介したり、作って販売したり家で、料理は日本の料理とどちらも作ると言います。「今日は、お魚を味噌で煮ます」。ハンガリーの人は食べることも作ることも大好きな人が多く、アニコーさんもそう見受けられます。

いつも前向きなアニコーさんは仲間を探しています。環境市民にも情報や仲間が欲しくて入会しました。「きつと変えていけるよ。一緒にやりましたよ」と心地よい言葉。ア

編集後記

フランスで列車に乗った時のこと。車窓に雄大な田園風景が広がりました。フランスは世界有数の農業立国でした。大規模農法は食料自給率100%以上。そんな国を羨ましく思いました。その時、和食が恋しくなっていたためか、不意に日本の里山風景が脳裏に浮かびました。里山は生産効率は低いけれど理屈抜きで美しい、確信にも近くそう思ったのです。

(文/ニューズレター編集部 衣川 正和)

編集部 (五十音順)

有川 真理子	鷹野 圭
石田 浩基	武田 麻里
風岡 宗人	千葉 有紀子
衣川 正和	村田 諒平
久保 友美	和氣 未奈
坂部 安希	デザイン 智子
角出 貴彦	下司
高橋 めぐみ	

ニコーさんの言葉は最後まで力強く、頼もしいものでした。
(インタビュー・写真 千葉 有紀子)

会員
限定

みどりのニューズレターをPDF配信 ペーパーレスでエコ&エコノミー



本誌「みどりのニューズレター」は会員を対象にPDFデータでも配信しています。PDFで購読していただく、紙や印刷、郵送費用が削減でき、また環境負荷も下げることができます。また、みなさんのお手元で場所をとらずにコンパクトにまとめることができ、必要な情報を検索したりすることもできます。

これを機にPDF配信を希望される方は、以下のEメールまでご連絡ください、



申し込みアドレス:kouhou@kankyoshimin.org

申し込みメールの件名:PDF 配信希望

- ①お名前
- ②連絡先電話番号
- ③配信先メールアドレス

……以上を記載の上、お申し込みください。

ラジオ番組「環境市民のエコまちライフ」 京都三条ラジオカフェ (79.7MHz)

身近な話題から旬の話題まで環境の視点から情報発信 ● 放送時間:毎週月曜午後1:00 から 1:15 (再放送は火曜朝7:00 から)
インターネットでの試聴・ダウンロードはこちら→ URL: <http://kankyoshiminradio.seesaa.net/>

環境市民に 入会しよう!

環境市民は、多くのボランティアと会員の皆さんの参加によって支えられています。
「持続可能で豊かな社会づくり」のために、ぜひ会員になって環境市民の活動を応援してください!

会員特典

- 月刊会報誌「みどりのニューズレター」をお届けいたします。
- 行事などの参加費を割引させていただきます。
- 環境に関する様々な情報を得たり、また質問や相談ができます。

会費

種別	年会費	入会金
個人会員	4,000円	1,000円
ペア会員	6,000円	2,000円
シニア・学生会員	3,000円	—
ファミリー会員	8,000円	2,000円
助成会員	10,000円	—
特別助成会員	50,000円	—
終身会員	一括 80,000円	—
営利法人会員※	1口 50,000円	50,000円
非営利法人会員※	1口 10,000円	2,000円

※年会費は一口以上

会費の振込み方法

- 1) 郵便振替振込用紙に、住所・氏名・電話番号・会員の種類・送金内容事項をご記入の上、「年会費+入会金」をご入金ください。(※シニア・学生・助成・特別助成会員は入会金不要)
- 2) ご入金を確認後、最新のニューズレター、入会記念としてポストカードをお届けします。

寄付をする

住所・氏名・電話番号・寄付金額をご明記の上、下記の振込先へお振り込みください。

会費・寄付のお振込み先

【郵便振替】 口座番号: 01020-7-76578
加入者名: 環境市民

(発行) 特定非営利活動法人 環境市民 (代表) 校本 育生 (発行人) 堀 孝弘

TEL: 075-211-3521 IP 電話: 050-3581-7492 FAX: 075-211-3531

E-mail: life@kankyoshimin.org URL: <http://www.kankyoshimin.org>

〒604-0934 京都市中京区麩屋町通二条下 第二ふや町ビル 405

(月から金午前 10:00 から午後 6:00)

● 環境市民 東海事務所

TEL&FAX: 052-521-0095

E-mail: tokai@kankyoshimin.org URL: <http://www.kankyoshimin.org/tokai/>

〒451-0062 名古屋市西区花の木 1-12-12 AOIビル 4階

● 環境市民 滋賀事務所

TEL: 077-522-5837 E-mail: cefshiga@kankyoshimin.org

〒520-0046 大津市長等 2丁目 9-12 竺 文彦気付



この印刷物は風力発電による自然エネルギーを使用して植物油インキで印刷しました。印刷: (有) 紀書房

本誌の無断複写・複製・転載を禁じます。
「環境市民」登録商標 第4809505号



環境市民
Citizens Environmental Foundation

